

核の脅威にどう対処するか：北東アジアの 非核化と安全保障

平成30年度 核兵器廃絶市民講座 第1回

2018年5月26日

科研費「核廃絶実現に向けての促進・阻害要因の分析と北東アジアの安全保障」
成果報告

長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA)

センター長・教授

鈴木達治郎

背景と目的：

被爆70年を迎えた2015年、核兵器廃絶実現にむけて大きな転換期。

核廃絶への促進要因

- 核弾頭数はピークの7万発から1万4900発まで削減
- 米オバマ大統領広島訪問
- 核兵器の非人道性アプローチ
- 核兵器禁止条約の採択

核廃絶への阻害要因

- 核兵器「近代化計画」
- 欧州、中東、南アジア、北東アジアの緊張
- 核抑止力依存の安全保障政策
- 核物質在庫量増大

日本の核のジレンマ(核廃絶と北東アジア安全保障)克服

北東アジアと世界の非核化、安全保障に貢献

研究計画概要：3つのサブテーマ

1. 非核保有国の役割

- 「核の傘」依存国
- 事例研究：核兵器禁止条約
- 事例研究：オーストラリア
- 非核兵器地帯・消極的安全保障
- 北東アジアと核抑止
- 北東アジア非核兵器地帯

○中村桂子(長崎大)
吉田(長崎大)、榎本(一橋大)
△高原(明治学院大)

2. 信頼醸成措置(トラック2)の役割

- 「トラック2」の定義と役割
- 事例研究：CSCAP
- 事例研究：NAPCI
- 事例研究：パグウォッシュ会議
- 北東アジアにおける「トラック2」の条件と課題

○広瀬訓(長崎大)
向(東京大)、孫(広島市立大)
△藤原(東京大)

3. 「非核化」の検証と科学技術の役割

- 核軍縮の検証
- 事例研究：衛星監視技術
- 事例研究：ABACCと地域核物質検証制度
- 北東アジア非核兵器地帯の検証制度とその課題

○鈴木達治郎、広瀬(長崎大)
全(長崎大)、永井、堀尾(東大)
△梅林(長崎大)

北東アジアの平和と安全保障に関するパネル(PSNA)

世界と北東アジアの非核化と
安全保障改善に向けての政策提言

○リーダー
△アドバイザー

研究スケジュール

• 平成27年度

- 9月下旬 第1回 プロジェクト会合
- 10～3月 各自現地調査(オーストラリア、ウィーン、ブラジル・アルゼンチン)
- 2月 第0回「北東アジアにおける平和と安全保障専門家パネル(PSNA)」会合

• 平成28年度

- 9月 第2回 プロジェクト会合(合宿)
- 11月 第1回「北東アジアにおける平和と安全保障専門家パネル(PSNA)」会合(長崎)
- 公開シンポジウム「核の脅威にどう対処すべきか」
- 12～3月 追加調査

• 平成29年度

- 6月 第2回「北東アジアにおける平和と安全保障専門家パネル(PSNA)」会合(モンゴル)
- 9月 第3回プロジェクト会合(合宿)
- 11月 最終報告 公開シンポジウム「核の脅威にどう対処すべきか」
- 3月 報告書完成、出版

「核の脅威にどう対処すべきかー北東アジアの非核化と安全保障」

(RECNA叢書第3号)

- 法律と文化社より 2018年3月出版
(鈴木達治郎、広瀬訓、藤原帰一編)

はじめに

第1部 「核の傘」依存低減にむけて: 非核保有国の政策

第2部 信頼醸成措置(トラック2)の役割

第3部 「非核化」の検証と科学技術の役割

第4部 パネル討論(藤原帰一、太田昌克)

